

2019年度 学校経営計画表

【別紙様式1】

1 学校の現状

学校番号	特11		学校名	県立内原特別支援学校								学校長名	東ヶ崎 明美					
教頭名	武井 和志												事務長名	武石 恵子				
教職員数	教諭	25	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	1	実習助手	0	寄宿舎指導員	0	事務職員	2	技術職員等	7	計	43
児童・生徒数	部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数		
	小学部	6	3	6	1	3	2	4	3	1	1	3	1	23	11	11		
中学部	2	3	0	2	2	1							4	6	4			

2 目指す学校像

『信頼を築きあえる学校』	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもが笑顔、教職員が笑顔、活気あふれる学校 ◆登校すること、学習することが楽しい学校 ◆明るくきれいなより良い教育環境を目指す学校
--------------	---	---

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的な活用や興味・関心をもてるような教材教具の工夫により「わかる」授業づくりに積極的に取り組むことができている。 ・自立活動指導力向上による大学教授等の専門家による研修を受けたり、配慮の必要な児童生徒の医療相談を積極的に実施したりしたことで、自立活動の指導に生かしている。 ・若手研修の校内授業研究によるOJTの機能を生かして、職員全体の授業力の向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階を踏まえて、新学習指導要領の下での、各教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点による学習評価を実践し、主体的に学ぶ力を身に付けるための資質・能力の育成を図る。 ・子ども同士の協働や集団生活を重視した対話のある授業作りを目指して、研究研修を通して実践していく。 ・ICTの効果的な活用の実践事例や教材教具の工夫を積み上げ、児童生徒の「良くわかった」の気持ちを大切にする授業実践に努めていく。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部では「おそうじマイスター」をめざして、外部講師による活動体験を実施することで、興味関心をもって取り組んだ。中学部では職業体験学習「うちとくワークステーション」を地域の4事業所の協力を得て実施し、中学校の生徒(3校21名)とともに学習した。このようにして、系統的なキャリア教育の推進を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達系統表の検討・活用を図ることで、児童生徒の発達段階に応じた小・中学部の系統的なキャリア教育を推進していく。 ・事業所との連携を図り、職業・職場体験等とおして、望ましい勤労観や職業観を育むために学習の機会や内容を検討していく。
保健指導・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・てんかん発作対応の模擬訓練、消火栓の実地研修を新たな取り組みとして行うことで、より安心安全な学校づくりへの意識を高めている。 ・学部でヒヤリハット事例を出し合い話し合うことで、安全安心な環境づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・てんかん発作、食物アレルギーや誤嚥等の緊急時訓練について、職員が速やかに対応できるよう、職員研修の充実に努める ・児童生徒の安全に向けて、教職員の目配り、気配り、心配りの意識下に基づき、個に応じた適切な対応に努めていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく、地域の方との防災訓練を実施することで、防災に対する認識を強化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校地域防災連絡会の参加者と共に避難訓練を実施し、それぞれの立場からの専門的な助言を受け、防災対策力の強化を図る。
外部支援・理解啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談は304件となり、昨年度と比較して約4倍増となった。幼稚園、保育園等、発達支援センターからのニーズが多く、支援を継続している。幼児教育・障害児教育の専門家と連携し、保護者対象に、悩みなどの相談に対して助言を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育のセンター的機能の充実を図るため、教職員の授業参加研修を実施し、専門性の向上を図る。 ・幼児支援では、ニーズに応じた巡回相談を実施するとともに、幼児教室「けやきっこ教室」の活動内容の工夫や、保護者相談にも対応しながら、支援の充実を図っていく。

4 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> (1) 合理的配慮の観点に基づいた信頼される指導・支援の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業作りの工夫と改善に努める。 (2) RPDCA サイクルに基づいた授業研究をととした授業改善及び授業力の向上を目指す。 (3) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、系統性のあるキャリア教育を推進する。 (4) 家庭、地域、関係機関との連携の下、信頼される安全・安心な学校づくりを推進する。 (5) 特別支援教育のセンター的機能の充実に努め、特別支援学校の専門性を生かした地域貢献に努めるとともに、交流及び共同学習をととして、共生社会実現への理解・啓発を図る。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
信頼される指導・支援の充実 「対話的な学びのある授業」作りに向けた工夫と改善	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の発達段階に応じた対話や協働のある授業展開に努める。 ② 児童生徒の「良くわかった」の気持ちを大切に（主体的に学ぶ）授業実践に努める。 ③ 「何をできるようにするのか」「何が身に付いたか」の明確化に努める。
「対話的な学びのある授業」作りに向けた研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ④ 対話的な学びの視点を検討し共有することに努める。 ⑤ 外部人材の活用等による校内研修をととして、専門性向上に努める。（外部専門家との効果的な連携） ⑥ RPDCA サイクルに基づいた授業研究等をととして、授業改善と授業力向上に努める。 (新学習指導要領に沿った各教科等の内容や段階への理解)
キャリア教育の推進、進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 義務教育段階のキャリア教育の系統性をふまえた指導内容・方法の工夫に努める。 ⑧ 地域資源を活用した職業体験、職場見学、職場体験の充実に努める。（うちとくワークステーション：地域の学校の生徒の参加による職業体験学習）
安全・安心できれいな学校づくりと心身ともに健康な児童生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 児童生徒の安全確保と安全管理に徹底に努める。（目配り、気配り、心配りの意識化） ⑩ 特性に応じた摂食指導、食物アレルギーの適切な対応及び望ましい食習慣の形成に努める。 ⑪ 防災設備等を活用した防災訓練を実施し、防災対策力強化に努める。（学校地域防災連絡会、防災設備等に係る実地研修）
外部支援・理解啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ センターの機能を発揮した教育相談と地域への支援の充実に努める。（あすなるの郷支援部との連携等） ⑬ 地域の小中学校等との交流及び共同学習の推進に努める。 ⑭ 特別な教育的支援が必要な幼児等への早期からの支援の充実に努める。（けやきっこ教室） ⑮ 共生社会形成実現に向けた、理解啓発活動の推進に努める。